指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度: 6 年度)

施設の名称	宮城県さくらハイツ
指定管理者の名称	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会
施設所管部課(室)	保健福祉部子ども・家庭支援課

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘要
平成15年4月 ~ 平成18年3月	管理委託	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会	
平成18年4月 ~ 平成23年3月	指定管理者	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会	
平成23年4月 ~ 平成28年3月	指定管理者	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会	
平成28年4月 ~ 令和3年3月	指定管理者	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会	
令和3年4月 ~ 令和8年3月	指定管理者	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会	

※ 管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指定管理者の名称	名称	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会
	所在地	仙台市太白区茂庭台二丁目15-20
指 定 期 間	令和3年4月1日 ~ 令和8年3月31日 (5か年)	
募 集 方 法	☒ 公募 ☐ 非公募	

3. 施設の概要【施設所管課記入】

施設の名称	宮城県さくらハイツ	
所在地	宮城県	
設置年月	昭和23年12月	
根拠条例等	母子生活支援施設条例 母子生活支援施設条例施行規則	
設置目的	配偶者のない女子又はこれに準ずる事情にある女子及びその者の監護すべき児童を入所させて保護するとともに、これらの者を支援することによりその自立を促進し、あわせて退所した者について相談その他の援助を行うもの。	
施設の内容	敷地面積	7,006.13㎡(その他併用施設の敷地を含む)
	構造	鉄筋コンクリート造4階建て
	内容	事務室、相談室、多目的室、保育室、母子生活居室等
開館(所)日	366日	
開館(所)時間	午前0時00分 ~ 午後24時00分	
指定管理者が行う業務の範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・母子生活支援施設条例第3条各号に掲げる業務 ・支援施設の維持管理に関する業務 ・その他、知事が別に定める業務 	
利用料金制	採用の有無	☐ 有 ☒ 無
	利用料金の名称	

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和6年度) (A)	前 年 度 (令和5年度) (B)	評価対象年度 (令和6年度) (C)		
開館(所)日数	366 日	365 日	366 日	100.0%	100.3%
延べ利用者数	240 人	229 人	220 人	91.7%	96.1%

※ 対象施設が複数ある場合は施設ごとに記入

(2) 延べ利用者数の内訳

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和6年度) (A)	前 年 度 (令和5年度) (B)	評価対象年度 (令和6年度) (C)		
	240 人	229 人	220 人	91.7%	96.1%
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
合 計	240 人	229 人	220 人	91.7%	96.1%

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入

(単位:千円、%)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和6年度) (A)	前 年 度 (令和5年度) (B)	評価対象年度 (令和6年度) (C)		
県指定管理料	67,755	67,047	67,755	100.0%	101.1%
利用料金収入				#DIV/0!	#DIV/0!
その他		618	0	#DIV/0!	0.0%
収 入 計 (a)	67,755	67,665	67,755	100.0%	100.1%

(2) 支出

人件費	56,282	51,860	51,941	92.3%	100.2%
施設管理費	5,436	7,542	8,739	160.8%	115.9%
事業運営費	6,037	6,907	6,386	105.8%	92.5%
その他				#DIV/0!	#DIV/0!
支 出 計 (b)	67,755	66,309	67,066	99.0%	101.1%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	0	1,356	689	#DIV/0!	50.8%
前期繰越収支差額				#DIV/0!	#DIV/0!
次期繰越収支差額				#DIV/0!	#DIV/0!

※ 自主事業を実施している場合は、上記に準じて、自主事業の収支実績を別掲

6. 評価対象年度(6年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

主な視点	項目	事業実績 【指定管理者記入】		指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】		
					評価		評価	
経済性	施設・設備の維持管理業務の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に衛生管理に万全を期し職員、利用者と共に維持管理に務めた。 ・退所後の居室リフォーム、建物・備品関係の修繕、調整など積極的に実施。 ・遊具の点検を毎月行い法令で定められた期日通り定期的実施。 ・全館の排水管の詰り水漏れ防止として高圧洗浄や共有スペースのワックスがけを実施経年劣化に伴う改修に努めた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・感染症発生時に掲示、職員による施設周囲の除草、利用者との一緒に花壇の整備など環境整備、衛生管理に取り組んだ。 ・日常利用者が利用する自転車、遊具、公用車の定期点検を行い生活に直結した修理に迅速に対応し安全で安心できる快適な住環境と環境整備に努めた。 ・職務で使用するパソコン等の機器のメンテナンスに努めた。 		S	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症発生時の提示や施設周囲の除草、花壇の整備等を行い、環境整備や衛生管理を行った。 	S
	収支実績	<ul style="list-style-type: none"> ・上記5に記載 		<ul style="list-style-type: none"> ・職員の働き方や電気料節減など職場環境改善に職員が一丸となり取り組み評価される。緊急な修繕も多く経年劣化への対応が急務になり、予算に苦慮するも適切な執行に努め、利用者の安全で安心した住環境を提供することができた。 ・家族単位や児童行事の思い出は自立に必要な支援であり費用対効果と評価。 		S	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者への支援体制を確保しながら、管理経費の削減に努めている。 	S
効率性	管理運営体制	<ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉施設の設備及び運営に関する基準を満たし、有資格者・社会福祉経験者を配置。アフター支援員を含む12名とスーパーバイザー2名の職員体制。 ・専門的知識の習得、資質向上に県内努め外、内部研修や施設見学など年間23回、延べ51名が参加。 ・入所からアフターケアまで切れ目のない支援に努めた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・最低基準の職員配置基準を満たし社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師、保育士、臨床発達心理士の資格を有し利用者のニーズに対応できる職員を配置。 ・課題は複雑多岐にわたり専門的知識や対応が求められる資質向上をめざし研修等に参加。SVを入れた充実した職員会議や支援者会議、検討会など関係機関と協働した関係性に努めた。 ・インケアからアフターケアまで切れ目のない社会資源を活用した支援に努めた。 		S	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理料の範囲内において、入所者への適切な支援に必要な人員体制を確保し、処遇にあたっている。 ・複雑多岐な支援課題に対応できるよう、所内における情報共有及び関係機関と連携している。 ・職員研修については、各種研修会へ積極的に参加し、職員の資質向上に努めている。 ・また、自主研修の奨励など、日常的に施設長から職員への指導が適切に行われている。 	S
	人員体制	正規	7人	非正規	8人			
有効性	運営業務(ソフト事業等)の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の運営・事業計画に従い実施。 ・母親への支援(3,618件 前年比87%) ・児童への支援(4,362件 // 110%) ・保育支援(保育室利用延べ:302人 // 37%) (保育園利用児の支援延べ:192人 // 141%) ・心理支援(472件 // 98%) ・個別対応支援(母・児童:1,026人 // 90%) ・公的機関連携(271件 // 110%) ・退所者支援(母:178件 // 22% 子:5件 // 3%) 		<ul style="list-style-type: none"> ・虐待、精神的不安定な母と子どもとの今後について児相、病院など関係機関と連携し支援者会議やケース会議で検討した ・自己の回復として「安心できる居場所」となる心理室「ほっこり室」や利用者の要望によるヨガや散策、習字教室への来室も多く、心身のリフレッシュできる空間、人が回復には必要である。 ・アフター支援員による訪問やメールで24時間対応。若年母の「びあグループ」の参加も定着。好評を得ている。 		S	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な問題を抱えた利用者等、困難なケースに対しても、関係機関との連携により、適切な支援の実施に努めている。 ・退所者への支援についても、アフター支援員によるきめ細やかな自立支援が行われている。 	S
	利用実績	<ul style="list-style-type: none"> ・上記4(1)に記載 		<ul style="list-style-type: none"> ・入所課題も重篤で多岐にわたり入所後に課題が表面化するなど専門性が求められる。支援には関係機関との連携など時間、労力を要する「困難な問題を抱える」ケースの入所依頼に対して公平で平等な受入れに努めた。利用者を真ん中に置き、関係機関と連携し今後の母子の自立について取組んでいる。 		S	<ul style="list-style-type: none"> ・入所希望者が抱える問題が複雑化し、支援の困難性が増しているが、引き続き対応力の向上に努め、支援の充実に取り組まれている。 	S
有効性	利用者サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・365日24時間安心できる生活環境を提供・利用者の年間在籍220世帯、同伴児342人、計562人の利用。 ・入所:6世帯12人(前年比世帯1減)退所:6世帯15人(前年比同1世帯数増) ・職員会議・合同処遇会議・ケース検討会・研修など積極的に実施。 ・福祉サービス第三者評価自己評価実施 ・利用者アンケート年2回実施 		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者や対象者と常に繋がる携帯電話やメール、など24時間の対応に努めた。 ・年に1回施設長面接を実施、利用者と一緒に自立支援計画書を作成、福祉事務所の面接を行い今後の見通しを確認。 ・第三者評価自己評価を実施し支援を振り返り、職員研修や支援者会議、ケア会議に積極的に参加し支援や職員の専門性など資質向上に努めた。 		S	<ul style="list-style-type: none"> ・退所者に対してもアフターケアを行うなど、利用者のサービス向上に努めている。 ・職員研修を積極的に参加し、職員の質向上に努めている。 ・第三者評価を実施し、サービスの質工場に努めた。 	S
	利用者の苦情、要望等の把握とその反映	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の苦情要望にはその都度対応。 ・利用者アンケートを年2回実施 ・質問項目:母12 児4 ・1回目対象母18人→5人 児17人→3人 ・2回目対象母17人→11人 児14人→7人 ・質問12項目:はい139 いいえ3どちら28 ・質問4項目:はい26 いいえ4どちらでも2 ・アンケートの内容や要求 要望については職員会議で共有し検討している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・日常の関りを大事にし必要に応じ家事介入や親子間のトラブルなど個別対応の必要性を見極め母子で考える支援に努めた。 ・利用者からの意見やアンケートの要望や要求には職員会議で話し合い利用者の意向を確認しながら対応。支援の資質向上に繋がっていると考え。苦情解決制度の申し出はなかった。 		S	<ul style="list-style-type: none"> ・入所者からの要望や苦情の把握を行い、支援の資質向上に努めている。 	S
その他	県民の平等利用	<ul style="list-style-type: none"> ・県内外全域の福祉事務所からの相談に迅速に応じ、緊急に対して対応し、情報提供し対応策を一緒に考えた。 ・支援を必要とする方に福祉事務所施設の画像を通して情報を提供しアウトリーチに努めた。 ・関係機関からの相談や必要な社会資源の情報について各機関と連携し共に支援に努めた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・県内外の福祉事務所からの多くの問い合わせに対してこれまで培った支援力を活かし対応した。 ・緊急性の高いケースや利用を迷うケースに対して福祉事務所を訪問DVDを使い施設の利用について情報を提供。施設を知ってもらうためにもアウトリーチとして情報発信に今後も取り組んでいきたい。 		S	<ul style="list-style-type: none"> ・円滑に入所者の受入れを行うよう努めるとともに、入所に至らなくとも福祉事務所からの相談を受けるなど、支援の協力を工夫している。 ・施設の利用促進に向けて、情報発信に積極的に取り組んでいる。 	S
	安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・防災点検として毎朝各部屋の見回りを行い、月一回ベランダの避難箇所を確認。 ・3施設合同の防災会議を開催し、月一回防災訓練、業者による防火設備、消防設備の定期点検、遊具は3年に1度の点検を実施。 ・不審者や追跡者について警察と連携。 ・リスクマネジメント委員会による検証。 		<ul style="list-style-type: none"> ・3施設全体で非常時、緊急時を想定し防災訓練を実施、利用者と共に安全で安心した生活の維持に取り組んだ。 ・居室の安全管理や携帯電話の講習会など安心した生活支援に努め、必要に応じて警察と連携し安全維持に努めた。 ・施設内に委員会を設け年1回の委員会とその都度事案について職員会議で検証した。 		S	<ul style="list-style-type: none"> ・併設する施設と防災訓練を実施することで安全対策が適切に実施された。 	S

主な視点	項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
				評価		評価
その他	個人情報の保護	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報保護管理規程や倫理綱領、基本理念の遂行に努めコンプライアンスの理解に努めている。 情報漏洩が起こらないよう関係機関に状況を説明し協力を要請 利用者に自他の安全を守る意味や個人情報の重要性について入所時に説明をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議で施設管理に基づく情報の漏洩防止に努めることを確認。関係機関と個人情報の取扱いについて共有。 利用者同士が自身を語ることにより安全が脅かされる「恐れ」について入所面接で説明「自身の生活を守ること」の意味について一緒に考えている。 職員の個人情報取り扱いや記憶媒体による持ち出しの取扱いを徹底。 	S	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報保護管理規定等が職員に十分に周知され、職員の個人情報保護に関する意識が非常に高い。 外部に対する情報漏洩防止対策が徹底されている。 利用者に対する個人情報取扱いの説明など、情報管理に細心の注意を払っている。 	S
	自主事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> 施設の特性から、施設としての地域支援事業の実施は難しいが、子ども食堂や資源ごみの集積、学区民運動会など地域活動に参加。さくらハイツ主催の「習字教室」「若年母の会」を地域の施設を使い退所後も継続。 地域貢献として子育て支援やイベントにスタッフとして参加。関係機関に情報や資源を提供し連携した支援に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設の機能上地域への直接的支援事業は難しいが、地域からの相談に母子生活支援施設の機能や培った實力、情報を提供するなど地域貢献やアウトリーチに努めた。 要保護児童対策協議会や学校、保育所との年1回連絡会、学区民運動会、町内会総会など関係機関や地域と連携し対応した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 秘密性が求められる施設の性質上、地域と密着した支援が困難である中、可能な範囲で地域との交流・支援に努めている。 退所者に対し、ケースに応じて柔軟かつきめ細やかなアフターケアを実施している。 	A
	その他の取組	<ul style="list-style-type: none"> 要対協へ参加し学校や関係機関に社会資源としての施設の情報を提供し連携に努めた。 ひとり親家庭や機能不全家庭など支援を必要とする人の選択肢として母子生活支援施設の情報のアウトリーチに努めた 家族関係再構築として関係機関と連携。 ボランティアや保育実習生を受け入れ次世代の人材育成に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 退所した利用者や地域で支援を必要とする人たちに情報を発信し「孤立しない」ネットワークの構築に取り組んでいる。マルチネットな関わりに関係機関と協働し再統合にむけて取り組んだ。 次世代の人材育成として大学や専門学校と情報交換し積極的に学生を受入れた 環境配慮実践事業の認定を受け環境に配慮した取り組みを施設全体で実践した。 	S	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流・支援の充実という観点からも、ひとり親家庭に対する支援への努力が認められる。 	S
	総合評価		<ul style="list-style-type: none"> 年々困難な問題を抱える母子の入所が増え、母子分離再統合など関係機関との連携や退所後の地域生活につながっていく支援が必要であり、対応には職員の専門性やスキルが求められ、加えて職員のメンタルケアの必要性を実感。これらの取り組みを通し安心できる環境の整備や適切で円滑な施設運営、予算執行ができた」と評価したい。 	S	<ul style="list-style-type: none"> 困難な問題を抱える母子の入所が増えていく中で関係機関との連携や退所後のアフターケアを行い、切れ目のない対応を行っている。 	S

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	<p>困難な問題を抱える女性への支援に関する法律が施行され、関係機関や民間団体との協働した切れ目のない支援が理念として示されている。これからも特定妊婦の受入れや擁護を必要とする人に私たちが利用者を通して培った、施設の現状でできる支援を提供していくことが責務と考える。支援には安全で安心した住環境と充実した職員体制が必要であり、さくらハイツの課題と考える。</p>	<p>多様な課題に対応していくために各関係機関との連携が年々増えているため、より強固な体制構築を行う。</p>